

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童支援センター「ひゅうまん」		
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日		令和7年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 16名
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日		令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月13日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	季節を感じられる創作活動や、季節の食材、イベントに合った調理活動を行っている。また野外活動も、固定化しないよう、意図的に場所を変えたり、自分で考え決定してできる環境を設けている。 長期休みでは、曜日利用者同士で意見を言ったり、発語のないお子さんには日頃から好きな物や、保護者からの意見を踏まえ、自分たちで活動内容を決める機会も設けている。 活動も生活力につながるようなプログラムも取り入れている。	実年齢、発達年齢に合わせて内容を分けるなどの工夫が必要と感じる。 個の活動→小集団→集団活動→個の活動と将来に向け、ライフステージにあった活動内容を組み込んでいく。
2	生活空間は、より家庭に近い環境で、障害の特性に応じ、バリアフリー化されている。	全面バリアフリーになっており、トイレや洗面所、キッチンも車いすの方でもゆとりを持って移動できるようになっている。 職訪問介護員2級養成研修課程を終了している職員も多く配置されており、車いすの方も対応出来るようになっている。	クールダウンの部屋や、パーテーションなどの仕切りが内ワンフロアで、課題など注意散漫になってしまう場合がある。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者会の開催	居住地が異なり、また学校もそれぞれ異なる。小学1年生から高校3年生までと年齢の幅が大きく、お迎えの時間もことなり、保護者同士の交流も難しい。	保護者会がなく、希望しない保護者の方もいる。 今後、必要と感じる保護者の方がいれば検討していきたい。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会	居住地が異なり、また学校もそれぞれ異なる。小学1年生から高校3年生までと年齢の幅が大きく、どの学年にスポットをあてるか、異年齢との交流が難しかったり、それぞれのお子さんの持つ特性に配慮し交流していく難しさも感じる。	必要性を感じていない保護者や、希望しない保護者もいる。
3			